

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)天神ビジネスセンター2期計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.8
Q1 室内環境							0.40			3.6
1 音環境						4.2	0.15			4.2
1.1 室内騒音レベル		40~45の騒音レベルを目標とする				4.0	0.40	3.0		
1.2 遮音						5.0	0.40			
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能の設計仕様はT3				5.0	0.63	3.0		
2 界壁遮音性能		事務所と廊下の界壁にTLD45仕様の耐火遮音壁を設置				5.0	0.37	3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0		
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0		
2 温熱環境						3.1	0.35			3.1
2.1 室温制御						3.3	0.50			
1 室温						3.0	0.39	3.0		
2 外皮性能						3.0	0.24	3.0		
3 ゾーン別制御性		事務室の空調ゾーニングは約50㎡毎に冷暖切替可能				4.0	0.37			
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0		
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0		
3 光・視環境						3.2	0.25			3.2
3.1 昼光利用						1.9	0.34			
1 昼光率						1.0	0.53	3.0		
2 方位別開口							-	3.0		
3 昼光利用設備						3.0	0.47	3.0		
3.2 グレア対策						3.0	0.27			
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0		
3.3 照度		事務所の照度設定は500lx				4.0	0.13	3.0		
3.4 照明制御		1作業単位で照明制御可能で、点滅区分はWifiで変更可能				5.0	0.26	3.0		
4 空気環境						4.3	0.25			4.3
4.1 発生源対策						5.0	0.50			
1 化学汚染物質		内装工事の特記仕様書でレベル5相当の仕様を指定				5.0	1.00	3.0		
4.2 換気						3.7	0.30			
1 換気量		中央管理方式の空調設備で、事務所の換気量は35㎡/h・人				5.0	0.35	3.0		
2 自然換気性能						3.0	0.30	3.0		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.35	3.0		
4.3 運用管理						3.5	0.20			
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 濃度による外気導入制御を行う				4.0	0.50			
2 喫煙の制御						3.0	0.50			
Q2 サービス性能							0.30			4.3
1 機能性						4.3	0.40			4.3
1.1 機能性・使いやすさ						4.2	0.40			
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペースは10㎡/人と設定				4.0	0.30	3.0		
2 高度情報通信設備対応		OAフロアを設置し、コンセント容量は60VA/㎡				5.0	0.30	3.0		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の誘導基準を満たす				4.0	0.41			
1.2 心理性・快適性						4.3	0.30			
1 広さ感・景観		事務所は天井無しを標準とし、天井ありの場合でも8階以上でCH3m				5.0	0.34	3.0		
2 リフレッシュスペース						3.0	0.32			
3 内装計画		内装デザイナーにより、コンセプトに基づいた内装・照明計画を行う				5.0	0.34			
1.3 維持管理						4.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		評価項目の内9項目に対応				5.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		評価項目の内7項目に対応				4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性						4.4	0.30			4.4
2.1 耐震・免震・制震・制振						5.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		レベル2地震動の1.5倍の地震動に対して建物が倒壊しない設計とす				5.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		免震構造を採用				5.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房排気ダクトにガルバリウム鋼板を使用				5.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		空調冷媒管に断熱被覆鋼管を使用				4.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20			
2.4 信頼性						4.6	0.20			
1 空調・換気設備		評価項目の内3項目に対応				5.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		評価項目の内4項目に対応				5.0	0.20			
3 電気設備		評価項目の内3項目に対応				4.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		主要な配管について耐震クラスA又はSに対応				4.0	0.20			
5 通信・情報設備		評価項目の内4項目に対応				5.0	0.20			

3 対応性・更新性			4.1	0.30	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	基準階の階高は4.45m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比は0.111~0.113	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	3.0	-	
床荷重は500kg/m ² (4,900N/m ²)							
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	共用部からアクセス可能なEPSを各階に設置	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40	-	-	5.0
地区計画に基づいた建物高さ、壁面後退等により街並みの統一を図							
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			4.0	0.50	-	-	
ピロティ状の広場を設けることで快適な空間を提供							
3.2 敷地内温熱環境の向上			4.0	0.50	-	-	
舗装面積の縮小や排熱位置の配慮により温熱環境の向上に寄与							
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.19	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0
基準階事務室のカーテンウォールに自然換気機構を設置							
3 設備システムの高効率化			3.1	0.51	-	-	3.1
[BEI][BEIm] = 0.79							
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMSの導入によりエネルギー消費を管理	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			4.0	0.20	-	-	4.0
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水型の便器を使用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用設備を設置	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	厨房排水を処理する設備を設けて処理水を雑用水として利用	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材設備が分別可能なディテールとする	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.7	0.20	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70	-	-	
1	消火剤		1.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤に環境性の高いHFOを用いた断熱材を使用	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	行政指導がないが雨水貯留槽を設けて流出抑制を行う	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	市条例による公共交通利用促進策を実施し、シェアサイクルも設置	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	市条例に基づき、用途に応じたごみ置場を設置し、分別も行う	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.7	0.40	-	-	
1	風害の抑制	風洞実験により予測を行い、立地に対するランクを上回る個所がある	4.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明デザイナーが設計に参加すると共に、広告物にはガイドライン等設	4.0	0.70	-	-	
2	星光的建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	